

団体名	千葉県教育委員会
-----	----------

【事業概要】

1. 事業実施前の現状と課題

<現状>

船橋・市川地域には、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由などに対応する特別支援学校が複数設置されており、複数の障害に対応する特別支援学校のセンター的機能の効果を実践的に検証することができ、今後の千葉県の特別支援教育推進のモデルになる地域と考え、推進地域とした。

そして、それぞれの特別支援学校が有する異なる専門性を、役割の違いと捉え、特別支援学校間のネットワークを構築し、役割の違いを生かした効果的な連携・協力について検討することで、それぞれの特別支援学校の専門性を更に高め、特別支援学校のセンター的機能強化を図っていくことができると考え平成 25 年度より事業を開始した。

平成 25 年度・26 年度の主な成果と課題は以下のとおりである。

<成果>

- 専門性を有する外部人材を活用して、各特別支援学校が教育相談や研修会を行い、専門的な指導支援に生かすことができた。
- 特別支援学校の提供できる支援機能について関係者間で情報共有し、積極的な地域支援を行うことができた。
- 各学校が外部人材の活用方法について事例をまとめた「外部人材活用事例集」を県内の特別支援学校、市町村教育委員会、推進地域の小・中・高等学校に、「葛南地区特別支援学校の利用ガイド」を推進地域内の幼・小・中・高等学校の全教員に配付し、特別支援学校のセンター的機能について広報することができた。
- 事例集作成の過程で、外部人材活用に当たっては、外部人材の専門的な視点をどのように教育活動に生かしていくのかを考えて実践していくことの重要性が確認された。
- 船橋市では特別支援学校が主催していた聴覚障害と肢体不自由の教育相談会を市教委が主催して行い、支援を必要としている児童生徒のニーズの掘り起こしの機会となった。

<課題>

- ◇個別の事例で外部人材を活用して得られた知見や指導方法を実践的な力として教員間で共有し、学校として蓄積する。
  - ・全教員が外部人材の活用に関われるような校内体制作りと活用方法を検討する。
  - ・外部人材の効果的な活用の工夫や研修会の方法について工夫・改善を図る。
- ◇「外部人材活用事例集」「葛南地区特別支援学校の利用ガイド」を有効に活用し、センター的機能について更に広報する。
- ◇合同相談会を継続するための体制を整える。
- ◇小・中学校等への効果的な支援について検討する。

## 2. 事業を通じて得られた成果と課題

平成 25・26 年度の成果と課題を踏まえ、平成 27 年度は以下の 3 点に取り組んだ。

### ① 特別支援学校としての専門性の強化

- ・平成 25・26 年度に引き続き、各特別支援学校の障害種の違い、校内や地域のニーズ等に応じて P T、O T、S T、臨床心理士、看護師等の外部人材を配置・活用し、実態把握、個別の指導計画の作成、教材・教具の工夫等について、専門的な視点を生かして指導方法の改善を図り、校内教職員の共通理解を高めるとともに、教員一人一人の専門性の向上に努め、学校全体の専門性の向上を図った。
- ・特別支援学校において、自立活動、キャリア教育、職業教育、I C T 活用等の専門性向上のための研修会を実施して、教員一人一人の専門性の向上に努め、学校全体の専門性の向上を図った。

### ② 特別支援学校間での役割分担

- ・特別支援学校が有する機能や強みを生かし、合同教育相談会を船橋市、市川市それぞれ両市で行い、事業終了後も合同相談会を継続できるように体制を整え、両市の取組を成果報告会で紹介し全県に知らせた。

### ③ 地域内の小・中学校等を支援

- ・「外部人材活用事集」や「葛南地区特別支援学校利用ガイド」を活用し、特別支援学校のセンター的機能についての周知を図るとともに、外部人材の有効な活用方法を紹介し、各学校の外部人材の活用に生かせるようにした。
- ・効果的な小・中学校等への支援についてネットワーク連携協議会で情報交換を行い日頃の実践に役立てた。
- ・特別支援学校の教員が同行して、O T、P T、S T 等の外部人材を地域内の小・中学校等へ派遣し、特別支援学校のセンター的機能の一層の充実を図った。

平成 27 年度の取組の成果と課題は以下のとおりである。

#### <成果>

##### 相談機能について

- ・指導的立場の看護師と医療的ケアコーディネーターが協働し、地域の小中学校や特別支援学校で医療的ケアが必要な児童生徒についての教育相談を行い、地域の医療的ケアの体制作りの一助となった。
- ・外部専門家と特別支援教育コーディネーターとで高等学校を積極的に訪問し、高等学校との連携が強化され、高等学校の教職員と日常的にコミュニケーションを取ることができるようになり、相談件数が増加した。この成果を成果報告会や特別支援学校コーディネーター研修会等で発表し、高等学校への効果的な地域支援について提案し、成果を共有することができた。
- ・これまで特別支援学校が主催して形成してきた視覚障害と聴覚障害の県内のネットワークについて、市教委と共催することで、ネットワークの拡大と新たな相談者の掘り起こしにつながった。

##### 指導・支援機能について

- ・通級担当者が外部人材（臨床心理士）と在籍校担任等と協働した指導・支援の結果、不登校傾向にあった児童生徒に満足感や達成感、自己肯定感が生まれ、在籍校で生き生きと学校生活を送れるようになった。

- ・外部人材（言語聴覚士）と協働して、障害理解授業を行った。より専門的な視点を授業内容に取り入れることで、専門的な知識を小中学校の児童生徒に分かりやすく伝えることができ、周囲の障害理解を深めることができた。
- ・外部人材（言語聴覚士）と協働し、吃音のある生徒が吃音について正しい知識を得たことで、高校受験に前向きに取り組むことができた。

#### 研修機能について

- ・特別支援学校の教職員に専門性の向上についてのアンケート調査や小・中学校等の教職員にセンター的機能活用についてのアンケート調査を実施し、事業の効果を検証した。結果として「外部人材の助言は教職員にとって有効である」の質問項目については、「大変そう思う」と80%以上の回答を得た。外部人材との協働が、教員の専門性が向上したとする意識向上につながった。
- ・外部人材を活用した小・中・高等学校の教職員に対してアンケート調査を行った。外部人材の活用は効果があったとする回答が98%と大変高い割合であった。評価が高い要因として、以下のように捉えている。
  - ◎新しい視点から外部人材の助言を聞くことができた。
  - ◎具体的な内容を聞くことができた。
  - ◎体験談を交えた内容が分かりやすい。
  - ◎合理的配慮について等最新の情報を聞くことができた。
  - ◎基礎的な内容が分かりやすい。
  - ◎心理検査の結果を具体的な支援や見立てに結びつけることができた。
  - ◎問題行動の背景を考え、児童生徒の実態把握の方法を知ることができた。

#### 広報・啓発機能について

- ・平成25年度と平成26年度の研究指定校が受けた相談件数を比較すると、小学校からの相談が1.17倍、中学校が1.45倍、高等学校が1.97倍と増加している。
- また、事業開始以前の平成24年度と平成26年度の相談件数の総数は613件増えておりいずれも顕著な増加が見られた。これは、特別支援学校のセンター的機能について周知が図られてきた結果の表れであると考えられる。相談機能が高まることで、地域の小・中・高等学校の特別支援教育についての意識が高まり、理解の広がりや深まりにつながっていくと考える。

#### コーディネーター機能について

- ・相談機能でネットワークの拡大を図ることに伴い、連携が強化され、コーディネーター機能を発揮することに役立てることができた。

#### <課題>

- ◇学校組織としての専門性の担保が必要であり、それから県全域における障害種ごと等のネットワークの構築が必要である。
- ◇特別支援学校の専門性の向上とともに、センター的機能を活用した地域の小中学校等の組織的な専門性の向上が重要である。
- ◇外部専門家活用で得た知見のデータベース化や共有化が必要である。

### 3. 解決策（次年度の取組）

- 「外部人材活用事例集」や「成果報告書」を使い、県全域にネットワーク構築によるセンター的機能の強化の重要性や外部人材の協働することの意義、あるいは協働の在り方を広めていく。
- 推進地域の特別支援学校を中心に、外部人材活用で得た知見のデータベース化や共有化を図り、更なる校内の教職員の専門性の向上につなげる。地域の中学校や高等学校等への相談事業や通級による指導の拡充に努めていくとともに、センター的機能を活用した学校内での組織的な専門性が向上するように支援して行く。

### 4. 事業成果の維持・発展に向けた工夫や取組や方針

- 組織としての専門性向上にとって個人の専門性の向上は必要不可欠であり、これを再認識すること、また、個人が得た知見を組織の共有知として活用することで、組織の専門性につながっているかどうかということを検証しながらセンター的機能を発揮していく必要性について、特別支援学校コーディネーター研修会を通して共通理解を図っていく。
- 現在実施している県の事業において、外部人材との協働の効果を示すとともに、センター的機能にも活用できるように共通理解を図っていく。

#### 【推進地域及び指定校一覧】

推進地域	指定校	
船橋市・市川市	1	県立船橋特別支援学校
	2	県立船橋夏見特別支援学校
	3	県立市川特別支援学校
	4	県立千葉聾学校
	5	県立千葉盲学校
	6	船橋市立船橋特別支援学校 金堀校舎
	7	船橋市立船橋特別支援学校 高根台校舎
	8	市川市立須和田の丘支援学校 須和田校舎
	9	市川市立須和田の丘支援学校 稲越校舎